

施策番号 4-1-2	施策名	消防・救急の充実	基本目標	自然と共生する災害に強い安全・安心のまちづくり		
			政策名	安全・安心に暮らせる生活環境づくり		
	主管課	芽室消防署	課長名	松久哲也	内線	62-5377
	施策関係課	総務課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図				結果	
災害の拡大防止と、緊急時の迅速かつ的確な対応に向けた備えを進めます。		町民、消防・救急体制		・予防意識の醸成と、災害・緊急時の迅速かつ的確な支援 ・消防・救急体制の充実を図る				町民の生命・財産を守る	
成果指標	説明	単位	策定時(基準値)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度実績	2026年度目標	
① 住宅用火災警報器の設置率	消防署調べ	%	70.0 (R3)	68.0				90.0	
② 火災出動件数	消防署調べ	件	20 (R3)	13				10件以下	
③ 防火講習会・普通救命講習会参加者数	消防署調べ	人	388 (R3)	1,031				2,200	
成果指標設定の考え方	①1年7%上昇を目標として算出したもの。 ②近年の火災出動の動向を基に目標値を算出したもの。 ③自主防災組織数の増加による参加者増を見込んで算出したもの。								

2. 施策の事業費

	策定時決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費（千円）	353,633	401,607			

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2023年度の成果評価 (基準年との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	①既存住宅居住者への周知不足。 ②計画的な査察及びパトロールの実施。 ③消防の講習会開催推進と、事業所等の訓練再開。
②第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる	根拠 (理由)	①75歳以上の高齢者を対象とした取り組みを推進する。 ②事業所に対する査察を計画的に行い防火対策の指導を徹底する。人為的に発生する火災の減少を目指すためゴミ焼却止の防火パトロールを強化する。 ③役場との連携を図り、町内会、自主防災組織及び企業へ各種講習会開催の働きかけを強化する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能		
	<input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい		
(2) 施策の成果評価に対する2023年度事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	芽室消防署活動事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
	芽室消防団運営事業		
	芽室消防施設整備事業		
③事務事業全体の振り返り(総括)	・災害現場における消防職員の安全・迅速な活動を遂行するために必要な、被服や特殊装備の更新を計画的に実施し、各種講習会の受講、救急隊員病院実習及び消防学校専門課程の入校で得た知識を職員全体で共有し能力の向上を図った。 ・火災現場における消防団員の安全・迅速な消火体制の構築を図るため、令和4年度から5カ年計画で消防用ホースの更新を実施する。 ・芽室救急1は配備から12年経過、経年劣化による不具合が発生し運用に支障が出ていたことから、傷病者や救急隊員の負担を軽減する資機材を装備した新芽室救急1へ更新した。 芽室指揮1は配備から15年経過し、経年劣化により運用に支障が出てきたことから、天候に左右されないスペース等を確保した新芽室指揮1へ更新した。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)

担当課 評価	コナが第5類へ移行したことで、消防として事業の推進を図ることができた。事業所等の防災に関する取り組みも回復傾向にある。災害対応では能力の向上を図り、出動体制を低下させることなく活動したこと、策定時と比較して前進した。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		

A:実現した

B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した

C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した

D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した

E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口の減少と高齢者人口の増加。 ⇒救急出動に占める高齢者割合の高さ(65歳以上約61%)。</li> <li>⇒消防団員の定数不足と高齢化。</li> </ul> <p>《今後の予測》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者人口増加に伴う、救急出動件数の増加。</li> <li>・消防団員の定年退職と、少子化や社会情勢の変化に伴う定員不足の慢性化。</li> </ul>
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	<p>《改善結果》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・別の課で高齢者の住宅に訪問する際に、住宅用火災警報器の設置促進活動を合わせて行うなど、課をまたいで連携して進めてほしい。</li> </ul> <p>消防では75歳以上の高齢者を対象とした取り組みを推進するため、役場の各課の協力を得て対象となる高齢者の確認を進めています。今後は、結果を基に実行計画へ事業の計上並びに住警器等配付モデル事業の申請を行い、事業を実施する際は役場関係課及び消防団の協力を依頼し、高齢者を火災から守る取り組みを推進します。</p>

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たにに取り組むべき課題)

- 防火講習会・普通救命講習(芽室消防署活動事業)  
町民が防火防災に対する意識と知識を習得する機会として、応急手当、火災や住警器等に関する講習会の開催を推進する。
- 住宅用火災警報器の設置促進と火災予防対策(芽室消防団運営事業)  
高齢者を住宅火災から守る支援の在り方について、役場の関係部局と協議を進める。  
消防団と連携した取り組みとして、独居老人宅防火訪問や幼年消防クラブ活動等を推進し、高齢者を災害から守り、防災や応急手当に関心を持った人材の育成を図る。
- 消防・救急体制の充実(芽室消防施設整備事業)  
複雑多様化する災害に対応できる消防体制を構築するため、消防車両や各種資機材を研究・調査し、必要とする装備の計画的な配備・更新を進める。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	消防団員増強について、総務課と連携して取り組んでください。	<p>A:実現した</p> <p>B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した</p> <p>C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した</p> <p>D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した</p> <p>E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した</p>					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価同様に前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防車両の展示や消防体験等の内容で子ども向けにイベントを開催してはどうか。</li> <li>・住宅用火災警報器の設置について、対象を年齢で分けるのではなく、築年数が古いエリアを中心に巡回した方が効果的ではないか。</li> <li>・上美生地区で防災訓練の実施や中学校での職場体験などの開催を引き続きお願いしたい。</li> </ul>	<p>A:実現した</p> <p>B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した</p> <p>C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した</p> <p>D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した</p> <p>E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した</p>					